

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701277		
法人名	倉石ハーネス株式会社		
事業所名	グループホーム ながわ荘		
所在地	青森県三戸郡南部町大字上名久井字伊勢堂下21-7		
自己評価作成日	令和02年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和3年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心・安全に暮らせるように、一人ひとりのできることに対応することはもちろん、できないことを工夫してできるように対応することを基本にしている。日常生活にメリハリをつけるために、個別外出の支援(外食・温泉など)、小集団外出(買い物・各地域の祭り)を盛んに行っている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で外出はしていない。また、月1回は必ず全員が参加できる行事を計画している。個別外出は介護計画にも反映している。誕生会も個人を大切にするために当日に行っている。日中は玄関施錠をせず、安全確保に気をつけながらいつでも外へ散歩できるようにしている。利用者様が、安心・安全・笑顔のある生活が送れるように、月1回の内部研修をしている。事故対策・認知症ケア・外部研修報告会等、その都度必要な研修に変更しながら実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	令和元年度に職員全体で理念を話し合った「ながっこ良く輪になって暮らそう」という独自の理念のもと、共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年町内会に加入し、地域の行事の草刈りや運動会、盆踊り等に参加していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響により自粛している。近隣の果樹園より季節の果物をいただき、良好な関係を築いている。今年度は町内会班長を務めている。また、ホーム管理者は町内会の会計監査の役割をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は新型コロナウイルスの影響で、認知症の予防・普及活動等の地域に向けた取り組みを行っていない。入居申込みされた方が相談に来荘している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催しており、利用者や家族代表、町内会長、地域住民、町役場担当課職員が参加している。会議ではホームの状況や評価結果等の報告を行っている。また、様々な意見を伺い、災害や防犯、感染対策等について取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、町役場職員が参加している。ホームの実態を理解してもらうため「自己評価と外部評価表」を提出して報告をしている。役場にホームのパンフレット・料金表を設置し、入居申込みの参考にさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者と全職員が身体拘束(施錠も含む)は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。玄関や居室等は施錠しない等、利用者が自由に出入りできるようになっている。帰宅願望を察知した際は、必ず職員が付き添っている。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族に書面で同意していただく等のマニュアルがある。3ヶ月毎に身体拘束防止対策委員会を設け防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が内部研修等で虐待に関する理解を深め、発見した場合の報告と対応策の取り組みを行っている。管理者は職員の日々のケア提供を観察する等、虐待は決して行わないという意識でケアを提供している。トイレ内にも「こんな声掛けしてませんか」の禁止語を日々の見直しに向けて掲示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が制度を利用するため、職員が支援・理解を深めるように後見人(弁護士)との協力を得て計画を進めている。担当者からの毎月の近況報告を継続している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者と家族等に理念等のケアの方針について説明している。利用料金等の改正時にも説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者や管理者、職員は、利用者が意見や苦情を出しやすいように働きかけている。意見等を本人等の言動より把握している。不満や意見、毎食の感想を聞きだしている。また、玄関やトイレに苦情箱を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出された意見を反映された仕組み、利用者や職員が馴染みの関係を保ち、両ユニット間の職員体制や異動を検討しています。異動などを行った場合利用者への影響も配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の日々の努力や勤務状況を把握している。年2回、健康診断を実施して、職員の健康を保つ体制や労働基準法を休憩室に掲げている。職員会議等での説明をしている。保有資格を活かした配置や向上心が持てる職場環境に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	独自の年間研修計画(委員会)を毎月1回実施している。研修受講後に報告書を作成して、職員に会議の際に伝達・周知している。受講参加者は日々のケアに支障がないように、全職員に周知して、勤務体制に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルスにより地域内のネットワーク会議ができない状況となっている。情報交換は電話連絡しているが、交流の機会や年1回の勉強会の予定も未定である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談を受ける際、利用希望者や家族と面談する等、直接話を聞く機会を設けている。利用希望者の身体状況や思い、希望、ニーズ等を十分に把握できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談を受ける際は家族と面談して、直接話を聞く機会を設けている。まずは家族の思いや希望、ニーズ等を把握するように努めている。信頼関係を築くことを意識して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望者や家族のニーズに対して何が必要なのかを見極めている。対応できないことに対しては十分検討している。地域包括支援センターへの相談や他サービス機関、地域の医療機関に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が認知症に対する理解と知識を得て、利用者の喜怒哀楽を共感・傾聴するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換は、日々の異変行動について支える関係を作るように努めている。自宅での暮らしぶりや家族の介護方法を考えてもらいながら協力を依頼することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のご家族から了承を得てから面会や馴染みの場所に出かけるように支援している。現在はコロナ禍のため面会時間を制限している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように、人間関係を把握している。利用者同士のトラブルやその後の影響が残らないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を示している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の思いや希望を把握するように努めている。意向が十分に把握できない場合は、利用者の視点に立って意向等を把握している。また、家族や関係者等から情報収集も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やライフスタイル、個性、価値観を把握している。地域との関わりを利用したサービスの情報収集を行っている。写真撮影時等は、プライバシーに配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の暮らし方や生活リズムを把握している。一人ひとりの利用者ができること、分かること、無理なことを生活等を通して把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は、利用者の意向を取り組みながら必要に応じて家族からの情報収集を基に反映している。担当者と計画作成者が中心となり、各棟でサービス担当者会議で気づき等を計画に反映させた個別計画となっている。実施期間が6ヶ月、見直しは3ヶ月毎に行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの暮らしの様子や身体状況、通院記録等を具体的に記録している。記録の内容を共有できるように独自の「申し送りノート」を使用している。緊急時は、ラインで職員間に周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、利用者や家族等との暮らしの継続性を支援するための柔軟な対応を行っている。介護保険サービス(短期利用・医療連携体制・訪問歯科)を組み合わせている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、ホーム以外のサービスにつなげるように外部のケアマネジャーと連携を図っている。地域包括支援センターや地域のサービス事業者等の組織の構築に向けて協力体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援している。また、地域の特定医療機関へ集約を勧め、納得を得られている。受診結果は毎月1回、電話連絡している。臨時通院時は即時報告をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域の協力医療機関と連携が整っている。医療連携体制については、毎週1回正看護師が来荘し、利用者の身体状況を職員が伝え、相談に応じていただいている。また、通院の必要性についての助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に向けた期間内に、病態に応じた対応が可能なこと、困難なこと等について家族を含めて話し合いを行う体制としている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期の対応については、身体状況の変化があるときに、随時話し合う体制が整っている。また、医療機関との情報交換では、家族との連携を図りながら十分な話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の対応も含めて、連絡や対応方法等の緊急マニュアルを整備している。全職員が応急手当や救命救急の研修、訓練を行っている。個人毎の救急連絡シートを作成し、緊急時の体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯も含めた避難訓練を実施している。年1回、消防署の職員の指導のもと総合訓練も行っている。また、最新の緊急連絡網を掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言動は否定や拒否をせず、共感しながら接している。新人職員を含め、利用者のプライバシーや守秘義務、個人情報の取り扱い等に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の力量に応じて自己決定を促している。言葉で十分な意思表示をできない場合、表情や反応から読み取り、自己決定を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の希望や身体や精神状況に合った柔軟性のある支援を行っている。利用者一人ひとりのペースに合わせ、職員の都合に合わせないように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍のため毎月の理容店の訪問が希望通りできていないが、ホームに理容技師の免許を持った職員がおり、散髪をしている。日々の生活の中で、利用者の個性を尊重し、好みの衣類を選んでおしゃれができるように声掛けや短時間の買い物をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が在籍していたときの献立表を元に栄養面や好み、希望を取り入れて作成している。新型コロナウイルス対策で職員は一緒に食事を控えている。調理準備や後片づけを一緒に行っている。献立メニューでは、バラティーターと見た目にも気を遣って取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を把握している。嚥下機能低下や体調不良、病気等により食事が摂れない場合は、食べるタイミングや介護方法・食器等を工夫して食欲が増すように支援している。トロミ剤利用の際は職員間で検討している。体重を1ヶ月毎に測定し、増減を管理している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	新型コロナウイルス対策で、以前より手洗いの徹底を実施している。口腔内の手入れの必要性を全職員が理解し、一人ひとりの能力に合わせて声掛けや支援をしている。毎食後の口腔内の洗浄や義歯の手入れ、夜間の消毒保管の衛生面を徹底している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。パターンに応じて誘導を行なっている。オムツやパッド使用者の継続の要否の見直しを検討している。尿意・便意の確認時や失禁時の対応は、カーテンと扉を利用してプライバシーと羞恥心に配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解している。食材や水分不足量の見直しや目標摂取量を話し合っている。下剤や浣腸等、安易に薬に頼らないように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の好みの温度や入浴習慣、洗身等に対して適切な支援を行なっている。入浴を拒否する場合は、声掛けや対応等の工夫を行っている。機械浴がないため座位保持が不可能な利用者には、リクライニングチェアのシャワー浴や防水シートで入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握している。眠れない利用者には、生活リズムを取り戻せるように支援している。必要に応じて医療機関に相談をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるように、記録ファイルや薬を保管している。いつでも確認できる場所にある。飲み忘れや誤薬がないように、職員間で確認している。直接手に持って読むことで周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の嗜好品や楽しみを把握し、暮らしの中に組み入れて居室内でも楽しんでいただいている。利用者に対して、最新の通信器具(タブレット)の使用で生きがいを感じてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今まではその状況に合わせ、希望が叶えられるように職員が付き添って外出支援している。新型コロナウイルス対策により室内で過ごす時間やドライブ外出が増えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者自らが金銭管理を行うことの重要性を理解している。利用者の力量や家族の希望等を聞き取り、自身で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がいつでも電話をかけたり、手紙を出し易い雰囲気作りを行っている。利用者が書いた手紙を家族に出している。新型コロナウイルスの影響で面会が制限されているため、テレビ電話の使用を増やしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールやキッチン、トイレ等が家庭的な雰囲気を保てるように心がけている。月毎にホール内に季節感のある装飾をしている。適切な温度・湿度調整に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間が利用者の思い通りに暮らせるような場所になるようにしている。両棟へ気軽に行き来ができるように職員の声掛けや合同行事等の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に愛用した食器や馴染みの物を持ってきてもらうように働きかけてる。居室内に家族の写真や時計等を掲示して、安心感を与え居心地良く過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に応じて、室内に手すりの設置やソファの配置換えをしている。また、ナースコールやセンサー音の工夫をして安全対策を行っている。部屋の間違いを防ぐため、目印等の必要性を見極めて一人ひとりに合わせた表示の工夫をしている。		